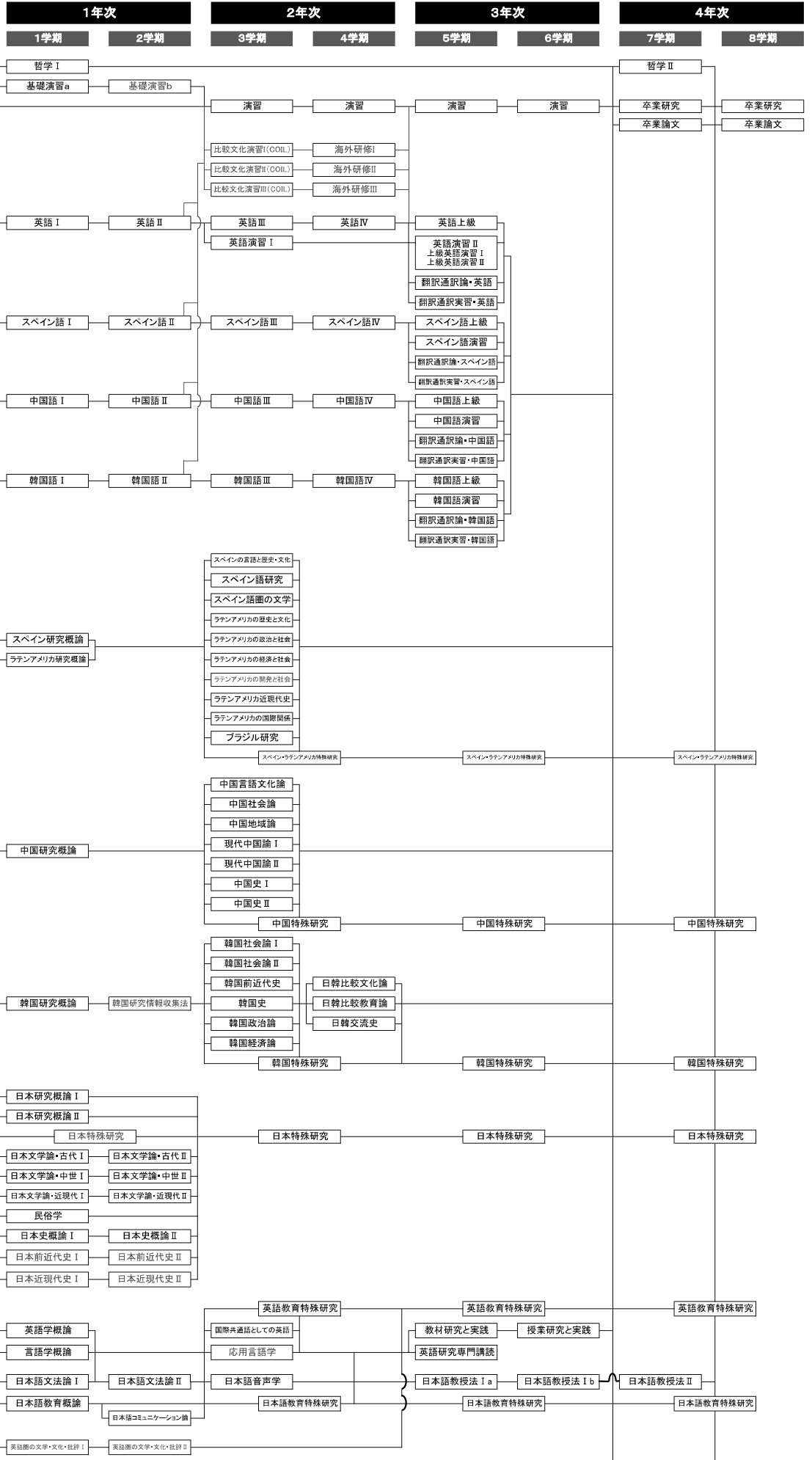


言語文化学科 履修系統図

部門	部門の学修・教育目標
学 科 目 標	「学修」は、1年次から2年次にかけて「基礎的知識・技能」を身に付け、3年次から4年次にかけて「応用的知識・技能」を身に付け、卒業論文の作成を通じて、総合的に高い学修能力を身に付ける。また、卒業論文の作成を通じて、研究活動で必要となる「基礎的知識・技能」を身に付ける。また、卒業論文の作成を通じて、研究活動で必要となる「応用的知識・技能」を身に付ける。
卒業 生 の 培 成 目 標	2年次から3年次の演習では、各演習のテーマに沿った少人数での協働学習を通じて、コミュニケーション能力や問題解決能力を身に付ける。また、3年次の卒業論文を通して、各自のテーマについて研究し、その成果を卒業論文にまとめる。
海外 実 践 目 標	課題解決的な実践を通して、自身が形成している語学と教養の実際的な力とその不足分を確認することで、学部教育で形成される教養を国際的な職業人・市民として活かすものとする認識と能力を養成することを目標とする。
外国 語 科 目	「英語とスペイン語」「英語と中国語」「英語と韓国語」という組み合わせから1つを選択し、2言語を併習するカリキュラムとする。2つの外国語を「読む」「書く」「聞く」「話す」という運用能力を専門的なレベルに到達させるカリキュラムを実施する。英語は習熟度別、それ以外の言語は初歩から学ぶ。 各言語とも、学習段階が上がるとともに、リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった運用能力を総合的に修得し、自分の見解をまとめ、表出できるようにする。 各言語の上級、演習ではさらなる技能の向上を目指すとともに、多様な場面でコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。また、翻訳通訳論、翻訳通訳実習では基本理論を修得後、実務的な翻訳通訳の実践を行えるようにする。
ス ペ イ ン ・ ラ テン ア メ リ カ 研 究 科 目	スペイン語圏およびブラジル、カリブ地域の総合的な地域理解を目的とする。スペイン・ラテンアメリカの基礎知識を概論で獲得後、言語・文学を含め、他文化を理解するときに必要な、社会の歴史、文化、経済、抱える現代の問題など広い知識と他地域との相互関係の理解を深める。
中 国 研 究 科 目	中国および台湾、シンガポール等々を含む中国語圏と華人社会に対する総合的な地域理解を目的とする。中国語圏の基礎知識を概論で獲得後、歴史、文化、社会事情、経済など広い知識と他地域との相互関係についても理解を深める。
韓 国 研 究 科 目	韓国語圏を中心に総合的な地域理解を目的とする。韓国社会の基礎知識を概論で獲得後、言語・文学を含め、他文化を理解するときに必要な、地域史、メディア、スポーツ、ジェンダー、大衆文化、経済、政治など、韓国語圏の社会が抱えている現代の問題について広い知識を修得し、他地域との相互関係の理解を深める。
日 本 研 究 科 目	文学・歴史の研究を基礎として日本文化を広く理解するための知識と方法を学び、その上で日本に関する様々な個別的問題について深く考える力を養うことを目標とする。日本研究概論Ⅰは文学を基本の立場とし、日本研究概論Ⅱは歴史を基本の立場とする日本文化研究概論である。言語教育や他の文化圏の研究で得られる学びとも関わらせながら、視野の広い学びを目指していく。
言語 教 育 研 究 科 目	英語と日本語それぞれについて言語学・教育に関する専門性の高い勉強を行い、言語教育に携わるための素養を身につけることを目的とする。概論科目でそれぞれの基礎概念を学ぶと共に、その広がりや理解するべき目標とする。また、特殊研究科目ではより実践的・個別的な話題について知識と技能を高める。



グローバル社会研究科	<p>様々な政治的・文化的背景をもつ人々が共存する国際社会に関わる基本的かつ重要な論点について総合的に学ぶことを目的とする。国家や非国家(国際機関、市民組織、民族集団など)の行為が主体を織りなす国際社会の構造やダイナミクスについて検討し、様々な文化や価値観を持つ個人や集団が交流したり共生したり衝突したりしている身近な地域(ローカル)社会についても考察する。単に社会の実態に関する知識を身につけるだけでなくとどまらず、普遍化(グローバル化)の方向に働く秩序構築の動きをときに批判的に捉え、また社会の動向に違いやられている人々や文化に目を向け、現代世界の直面する諸課題やその解決のための道程を見極める創造的で柔軟な思考力を獲得する。</p>
教育科学研究科	<p>人間の成長発達に関する総合的理解を図ることを目的とする。教育学を中心に基礎的知識、理論、考え方を概論で学習後、学校、家庭、地域社会における人間の成長・発達にかかわる諸課題について、各論科目、特殊研究科目の学習を通して理論的、実践的に考察を深めていく。</p>
人文学研究科	<p>文学、歴史学、哲学に関わる人文学の科目を学び、文化の生成と展開を考察する。また、教養教育の一環として、古代から現代に至るまでの人間の知的根拠と営為、科学技術の可能性と問題性を目指していく。こうした学習を踏まえて、直面する様々な実生活の問題に結びつけ、思考力、想像力、判断力、行動力の向上を目指す。そして、真偽、善悪、美醜における普遍的な原理の学問的な追求を通して、人間形成という獨協大学の理念を実現する。</p>
認知・行動科学研究科	<p>心理学、生理学、動作学に関する基礎的知識を各論科目を通して学習し、より発展的内容を各論科目等を通して学習していく。こうした学習を踏まえて、生命活動や身体・精神活動、健康・身体運動活動などにかかわる諸事象について課題を自ら設定し、実験や調査などの実証的手法を用いて検討できる素養を身に磨いていく。また、得られた情報・数値データを幅広い教養を踏まえて多面的・論理的に考察し、自身の見解を表現する能力を身に付けていくことが求められる。</p>
データサイエンス研究科	<p>自然科学的な思考方法や科学技術の論理など、データサイエンスの関連領域を幅広く学び概論的科目の履修をした上で、アルゴリズムやデータベースの基本を学びデータサイエンス全般に渡る基礎能力を養う。また、専門的「データサイエンス特殊研究科目」を通して、社会実装を含めた応用能力を養う。</p>
教職関連科目	<p>教員免許「英語」、「社会」、「地理歴史」または「公民」の取得に必要な教科の指導法を修得し、中等教育での英語教育、社会科教育を実践できるようにする。</p>
授業科目共通	<p>全カリの欄を参照</p>

